



2010年9月25日

日本経済新聞

2010年9月25日

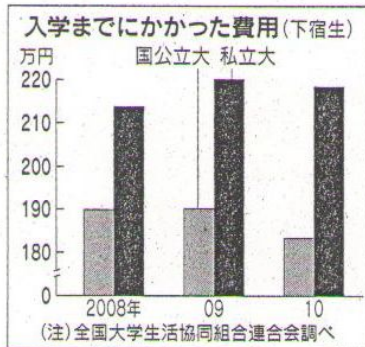
京都新聞

今春の大学・短大の新入生が入学から入学までにかかった費用の平均が、下宿生は国公立大で183万3300円、私立大で211万8360円だったことが24日、全国大学生生活協同組合連合会（東京）の調査で分かった。前年比でそれぞれ3.6%減、0.8%減。住まい探しの費用や生活用品の購入費を削る傾向がみられ、同連合会は「不況で節約志向が強まった」と分析している。

調査は今年4～5月、全国の大学・短大の新入生の保護者約2万5千人にアンケートした。回収

大学入学費用を節約

新入生の保護者 住居調査



住居関連費カット

率は36.8%。入学までにかかった費用の内訳を見ると、大学への納付金が国公立大で平均で22万2400円と年比1.1%増の61万7400円、私立が2.9%減の95万6400円。金の低い物件を探したり交通費を抑えたりしたと

受験料は横ばいだった。一方、下宿生の住まい探しの費用は国公立大の平均で22万2400円と年比1.1%増の61万7400円、私立が2.9%減の95万6400円。金の低い物件を探したり交通費を抑えたりしたと

「就職・将来が心配」も上昇

保護者に子供の大学生活で心配な点を尋ねたところ、「就職や将来のこと」が44.5%に達し、前年より5.1%上昇。「生活面や経済面」の回答も26.4%で0.6%高まった。不況や厳しい就職環境に不安を抱く保護者が増えていることが浮き彫りになった。

保護者に子供の大学生活で心配な点を尋ねたところ、「就職や将来のこと」が44.5%に達し、前年より5.1%上昇。「生活面や経済面」の回答も26.4%で0.6%高まった。不況や厳しい就職環境に不安を抱く保護者が増えていることが浮き彫りになった。

今春、大学や短期大学に入学した下宿生の保護者が、住まい探しのための費用や生活用品の購入費を削る傾向が一層強まったことが24日、全国大学生生活協同組合（東京）の調査で分かった。

調査は今年4、5月に、新入生の保護者を対象に

入学時に費用さら節約

実施、全国の48大学、約1万3800人から回答を得た。住まい探しの費用は計22万2400円で、08年と比べ12%減、2年連続のマイナスとなった。経費のマイナステータスに伴い、敷金、礼金や交通費、宿泊ものを減らす傾向が強いという。

下宿生の保護者調査

生活用品の購入費用も削減された。携帯電話を全廃した。減少幅が最も大きかったのは家電製品で、昨年の6700円減の11万3500円。より低価格の

生協連の和田寿昭専務理事は「多額の費用のために学生も生活が苦しく、学生や親の負担がこれ以上増えるのは『教育の機会平等』の観点から問題だ」と指摘している。

費用の内訳には、お部屋探しのための交通費、宿泊費が含まれており、それらを除いた礼金、敷金の合計は15万円以下となります。今後も「安・近・少」の動きが、ますます加速すると思われます。

USAGI通信はメールでの送信も可能です！！

弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。